

劇症型溶血性レンサ球菌感染症について

～人食いバクテリアと呼ばれる理由～

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、子どもにみられる急性咽頭炎の原因となることがある溶血性レンサ球菌によって引き起こされる重とくな感染症です。症状が急激に悪化し、筋肉や皮膚などの組織に深刻な障害をもたらすことから、「人食いバクテリア」と呼ばれることがあります。発見が遅れると治療開始も遅れ、命に関わることがあるため、早期発見と迅速な治療が重要です。最初は手足の痛みなど、一見するとよくある症状がみられます。しかし、その後急激に痛みや腫れが広がり、重とくな状態に陥ることがあります。なぜこの感染症では、このような急速な組織破壊が起こるのでしょうか。今回は、劇症型溶血性レンサ球菌感染症について紹介します。

【劇症型溶血性レンサ球菌感染症とは？】

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、主に A 群溶血性レンサ球菌の感染により起こります。他にB群・C群・G群の溶血性レンサ球菌も原因となります。写真 1 のように、溶血性レンサ球菌は丸い菌が数珠状に連なって増殖するため、鎖(連鎖)のように見えることからレンサ球菌と呼ばれます。溶血性とは、レンサ球菌が作る物質が赤血球を破壊する性質を指します。

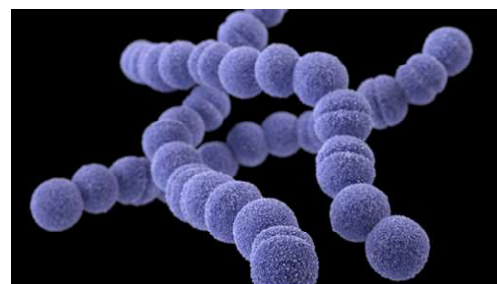


写真 1)溶血性レンサ球菌

出典：米国疾病予防管理センター (CDC)の Web サイト

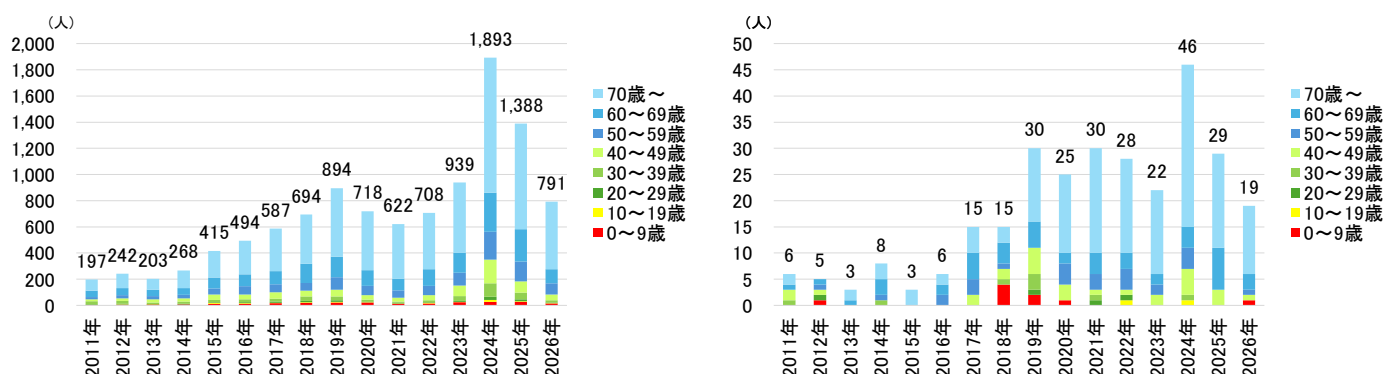
<https://www.cdc.gov/group-a-strep/about/index.html>

(2026 年 7 月 17 日アクセス可能)

図 1 に全国と名古屋市における劇症型溶血性レンサ球菌感染症の 2011 年から 2026 年 8 月 2 日までの年代別患者報告数の推移を示します。2015 年から 2019 年にかけて増加がみられ、以後も横ばいです。2024 年には、全国で 1893 人、名古屋市で 46 人と過去最多となっている感染症です。2025 年には全国と名古屋市で患者報告数が減少したものの、依然として 2011 年～2015 年頃より高い状態がみられます。

年代別にみると、60 歳以上の高齢者が多く、理由は加齢による免疫力の低下や、抗体の不足、皮膚バリア機能の低下であると考えられています。また、高齢者の場合、症状が分かりにくいなどの理由で発見が遅れがちである

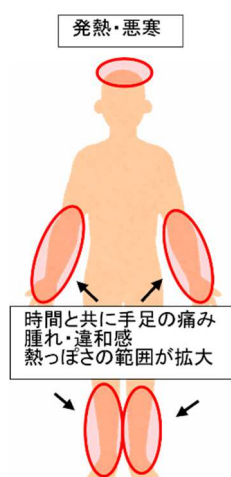
図 1)劇症型溶血性レンサ球菌感染症の年代別患者報告数(左：全国、右：名古屋市)



注)2026 年は 8 月 2 日まで

と考えられています。溶血性レンサ球菌は、増殖し毒素を産生します。免疫が正常な場合は、体内に入り込んだ溶血性レンサ球菌は免疫細胞・抗体により除去されると考えられています。高齢者の場合、免疫系が溶血性レンサ球菌の増殖を抑えきれず、抗体も不足します。毒素による障害に加え、毒素に対する強い炎症反応が起きることにより体力を消耗します。血液中で細菌の毒素や炎症を引き起こす物質が増加し、全身状態の悪化が進みます。致死率は約 30%と高いです。

【症状】



発熱・手足の痛み・腫れ・違和感・熱感がみられます。手足の症状は時間の経過とともに悪化し、痛みや腫れの範囲がだんだん大きくなります。進行すると、血圧が低下したり、意識障害が生じるなど、全身状態が悪化しショック状態に陥ることがあります。手足の痛みから早期発見につなげることで、早い治療開始につながります。

突然発症し、数十時間で全身状態の悪化がみられ、致死率も高いため、症状に注意が必要です。皮下組織の発赤や腫れが急速に広がる場合は劇症型溶血性レンサ球菌感染症が考えられます。皮膚の変色・壊死は、レンサ球菌の増殖や毒素の作用によって生じることがあります。このような症状が急速に進行する場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。

A 群溶血性レンサ球菌が劇症型溶血性レンサ球菌感染症以外に起こす病気として、子どもに多い A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎(溶連菌感染症)があります。咽頭炎では突然の発熱と喉の強い痛みがみられ、莓舌(いちごじた)や全身の発疹が特徴的です。

【治療】

劇症型溶血性レンサ球菌感染症に特異な治療法はなく、ペニシリン系抗菌薬の点滴投与、壊死病巣の切除・洗浄、集中治療室での全身管理などを行います。

【感染経路・予防】

劇症型溶血性レンサ球菌感染症の感染経路は不明な点も多く、発症も突然が多いですが、接触感染、傷口からの感染が考えられます。患者との接触、患者の触れた物との接触により、手などを介して菌が皮膚に付着し、傷口などから体内に侵入すると、皮下組織で増殖することがあります。これが、接触感染です。皮膚の擦り傷などの隙間からレンサ球菌が手足に侵入する場合があります。

高齢者や糖尿病・がんで治療中の方はリスクが高く、感染予防のためには、手洗い・手指消毒を徹底するとともに、皮膚の傷を適切に消毒・管理し、菌の付着や侵入を防ぐことが重要です。タオルなどの共用を避けることも重要です。劇症型溶血性レンサ球菌感染症に対するワクチンはないため、手洗いなどの一般的な接触感染対策、皮膚の傷口の消毒・管理が重要になります。高齢者も含め、リスクが高い場合は、ケガをしないように注意することも重要です。劇症型溶血性レンサ球菌感染症以外の感染症にもかからないように、毎日の健康・体調管理に気を付けるようにしましょう。

